

てしま おかたやま たかとうやま
⑩手島 尾方山217.1m・高頭山142m 2014年3月18日



【手島 (てしま)】面積：3.41km² 周囲：10.7km
最高点：尾方山217.1m 人口：40人 (H22)
丸亀港から手島港まで約1時間30分 (高速船で約1時間)
曜日と季節によって時刻に運行状態が変化しますので注意が必要

塩飽諸島の中で一番北に位置する手島は丸亀から21kmほどあり、戦前は鉱山採掘も行われ島の人口は最盛期700~800人でした。今ではずっと人口も少なくなっていますが、その分緑が増えています。少しでも賑やかにという住民の心から、夏の黄色いヒマワリ畑が島のカラーとなってます。

島には、江戸時代幕府が地域住民に周知する札を掲げる『制札場 (せいさつば)』が今も残されており、八幡神社には、海軍試作の木製プロペラが残されており、手が届く高さの梁に設置されているので手で回せます。

両墓制度ほか島供養踊り、神霊踊り、やっこせ踊りなど江戸時代の風俗をとどめる芸能・民俗も豊富です。旧暦6月17日には、青木集落の巖島神社で珍しい船渡卸が見られます。

【手島 尾方山217.1m・高頭山142m 山行記録】

備讃フェリー丸亀港を9時25分発に乗船のはずが木曜日以外は欠航、出発が大狂い。11時10分の旅客船に乗船、江之浦、小手島を經由し12時5分に手島港に到着した。下船して右側、北に横たわるのが尾方山だ。

12時15分、遅れに焦りを感じながら歩行、尾方山に詳しい高田さんを訪ねたところ、安養寺境内の西側、お祀り墓左からの登山口をわかり難いからと一緒に案内してくれた。12時35分登山開始、緩やかな上り幅1m位のお大師道を5分ほど歩くとお大師地蔵(高さ50cm程)がある。無事を祈ってお参りし、ここからはウバメガシの木が林立



尾方山



安養寺の西側から登り始める



ウバメガシの中を登る

するきつい登りをテープを頼りに10分程歩く。汗が吹き出てくるが、風通しがよく涼しくて気持ちが良い。5分程休憩をとり13時5分山頂に着いた。尾方山の頂上は、幅10m長さ30m位で高い樹木に覆われていて見晴らしがきかない。食事の後13時35分下山開始もと来た道を引き返す。

枯葉が5cm位積もっていて足に柔らかで意外と滑らない。14時安養寺に下山した。

帰りのフェリーまでに時間があり、南の高頭山へも行くことになったが登山口が見つからない。権現神社の周辺を30分位探し南側、手島フェリー発着場の左5分程の六地蔵が登り

口と判った。14時43分登山開始、幅1m程の歩きやすい坂道を登っていく。テープ等の目印がなく、靴で土を掘りながら進み、下山の目印にする。15時9分頂上に着く。木々が林立しこちらも見通しは良くない。5分程で引き返し15時32分下山した。出発の出鼻をくじかれたが、二つの未知の山を登れて、満足しました。手島は昔は舟大工の島で栄えたそうですが、今は40世帯50人程のお年寄りがひっそりと住んでいるとの高田さんの話でした。



木立に囲まれた尾方山頂上



高頭山も視界がよくない